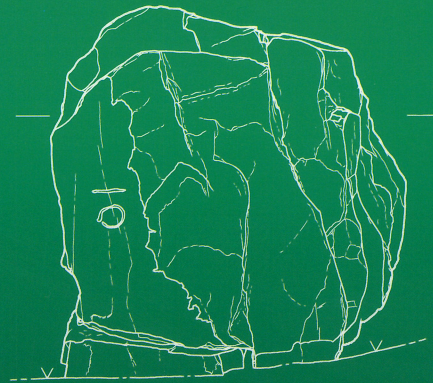
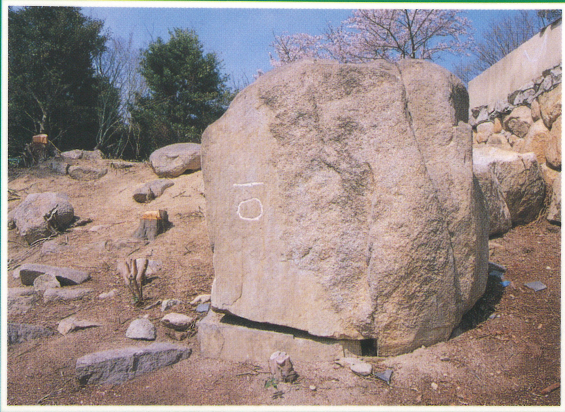


徳川大坂城東六甲採石場V

岩ヶ平刻印群(第85地点)発掘調査報告書

— 長州藩毛利家石切丁場跡における発掘調査の成果 —



2006年3月
芦屋市教育委員会

徳川大坂城東六甲採石場V

岩ヶ平刻印群(第85地点)発掘調査報告書

— 長州藩毛利家石切丁場跡における発掘調査の成果 —

2006年3月

芦屋市教育委員会



大阪湾上空から芦屋市と六甲山地東南麓を望む（南から、平成16年芦屋市広報課撮影・提供）



長背尾根東斜面に
立地する調査地
（北から）



調査地現況
(樹木伐採後、南東から)



調査地全景 (東から)



A区全景 (東から)



B 4区全景 (南東から)



1号石材（北東から）



2号石材（東から）



7号石材（北西から）



7号石材刻印A・B（北東から）



採石遺構 1 (北東から)



3号石材採石土坑 (東から)



採石遺構 2 (南西から)



採石遺構 2 と谷 2 (南東から)



採石遺構 3・4 (北東から)



採石遺構 5 (南東から、梅原章一氏撮影)



採石遺構 5 割石検出状況（南東から、梅原章一氏撮影）



採石遺構 5 割石検出状況（南から、梅原章一氏撮影）

序 文

芦屋市の背後に横たわる六甲山は、本市の歴史に古くから深く関わってきました。今回、発掘調査を実施した徳川大坂城東六甲採石場も、六甲の地形や地質と密接に関わっている遺跡の一つです。

大坂城が豊臣秀吉によって築かれたことは有名ですが、大坂夏の陣によって落城した後、江戸幕府によって再建されました。これが徳川大坂城です。再建事業は元和6年（1620）から寛永6年（1629）まで約10年の歳月を要し、外様大名を中心とした西国35ヶ国64家の諸大名の大がかりな動員により完遂されました。

徳川大坂城の石垣を築くために、大量の石材が瀬戸内海沿岸を中心とする地域から採石されました。徳川大坂城東六甲採石場もその一つで、西宮市から神戸市東部にかけて分布しています。本採石場には、400年を経た今でも、石切丁場跡やそれに伴う石材が六甲山中や山麓部の市街地に数多く残されています。

石材に彫られた刻印からは、採石を担当した藩・大名の多くを知ることができます。これまでの調査の結果、本採石場に携わった数多くの藩や大名がわかってきています。そして、今回の発掘調査で見つかった刻印からは、調査地が長州藩毛利家の石切丁場であったことを明らかにすることができました。

このように、本市の歴史は、徳川大坂城東六甲採石場を通して、大坂城の歴史、さらには本採石場で採石を行った諸地域の歴史と強く結びついているということが出来ます。

本書が郷土の歴史について関心を深めていただく一助となり、さらに学術研究および教育資料として広く活用していただければ幸いです。そして、今後とも文化財保護へのご理解をお願いいたたく存じます。

発掘調査および本書の刊行にあたりましては、事業者の大和システム株式会社をはじめとして、六麓荘町の方々、本事業の関係者各位には多大なご協力をいただきました。最後になりましたが、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

平成18年3月31日

芦屋市教育委員会

教育長 藤原 周三

例 言

1. 本書は、芦屋市教育委員会が兵庫県芦屋市六麓荘町139番地1他7筆で実施した徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群（第85地点）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。発掘調査は宅地造成に伴う事前調査で、平成16年3月13日～9月30日の期間で行った。
2. 確認調査・本発掘調査の実施ならびに資料整理、報告書の印刷・刊行にあたって、事業者である大和システム株式会社からは、多大なご協力を得た。確認調査・本発掘調査費ならびに遺物整理費・報告書刊行費は、大和システム株式会社が全額負担した。
3. 調査対象遺跡である徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群は、兵庫県芦屋市と西宮市にまたがって分布しており、芦屋市域では六麓荘町・岩園町および劔谷に所在している。本遺跡は、兵庫県教育委員会が平成16年3月に公刊している『兵庫県遺跡地図―第1分冊―（発掘調査の手引き・遺跡地図地名表）』（兵庫県教委2004）に「遺跡番号070049岩ヶ平刻印群」として掲げられている。また、本市教育委員会が平成13年3月31日に刊行した『芦屋市埋蔵文化財包蔵地分布地図』（森岡・竹村編2001）においても周知し、遺跡保護の取扱いを行っている。
4. 本書の名称および本文中で「大阪城」と「大坂城」とを使い分けて記載している。これは、当時の古文書や絵図等にみられる時系列的な用例に拠った。歴史的な理由は諸説みられるが、字義の縁起直しによるものとされる。
5. 確認調査および本発掘調査は、芦屋市教育委員会が調査主体となり、社会教育部文化財課（平成17年度より生涯学習課に統合）学芸員 竹村忠洋と同課嘱託職員 白谷朋世（学芸員）両名が担当した。調査・整理事業に係る事務は、文化財課長 西川孝夫、主査（文化財担当・学芸員） 森岡秀人、主査（総務担当） 田中尚美（以上、平成16年度）、生涯学習課長 石濱正昭、課長補佐 中戸博幸、主査（文化財担当・学芸員） 森岡秀人、主事 春木和子（以上、平成17年度）が主担当した。なお、調査体制の詳細については、第1章第3節に記したとおりである。
6. 発掘調査の実施に際しては、文化庁および兵庫県教育委員会から指導・助言を受けた。
7. 本書の編集は、芦屋市教育委員会生涯学習課学芸員 竹村忠洋と同課嘱託職員 白谷朋世が行った。
8. 報告文の執筆は、竹村・白谷と芦屋市教育委員会生涯学習課臨時的任用職員 水津真実が行った。執筆分担については、目次および本文担当節末尾に掲げたとおりである。
9. 確認調査・本発掘調査および遺物・資料整理作業、報告書作成は、竹村・白谷が担当し、調査・整理補助員として芦屋市教育委員会文化財課（平成17年度より生涯学習課）臨時的任用職員 天羽育子・池田計彦・喜多川綾・水津真実・高橋美代子・仲谷由利子・西岡崇代・前田礼子・山田みゆき・山本麻理が従事した。
10. 本書で使用した方位・座標は平面直角座標系VI系（日本測地系）である。標高は、東京湾平均海水準（T.P.）で表示している。また、図中で使用した方位は、座標北を示している。
11. 本書に掲載した地図は、第4・17図が国土地理院発行5万分の1地形図「大阪北西部」（平成11年要部修正）図幅、第9・10図が芦屋市発行2千5百分の1基本図「劔谷」「六麓荘」「苦楽園口」（平成10年3月修正）図幅・西宮市発行2千5百分の1基本図「劔谷」（平成16年修正）図幅、第18・102図が芦屋市発行1万分の1白地図（平成4年12月印刷）図幅をそれぞれ使用した。

12. 本書に使用した写真のうち、裏表紙および巻頭図版9・10、写真図版表紙に用いた5点は、梅原章一氏（日本写真家協会）が撮影され、提供していただいた。
13. 第56～59・61図で使用した調査地現状地形測量図（株式会社シードコンサルタント調整、摂陽文化財研究所監修、有限会社エムズ作業委託）は、事業者である大和システム株式会社から提供を受けたものである。
14. 巻頭図版2・3で使用した空中写真（有限会社エムズ撮影）は、事業者である大和システム株式会社から提供を受けたものである。
15. 調査地の発掘作業は、株式会社シードコンサルタントおよび東海アナース株式会社に委託した。
16. 調査区の空中写真撮影および測量作業は、有限会社エムズに委託した。第61図で用いた測量図および巻頭図版2・3、図版6～8で用いた写真は、その成果品である。
17. 石材の移設保存については、中村石材工業株式会社に委託した。
18. 発掘調査状況のビデオ撮影記録は、山本徹男氏（市内在住・映像作家）に依頼した。
19. 鉄製品のX線透過写真撮影については、大手前大学史学研究所の協力を得た。
20. 本報告に関わる遺物、写真・実測図等の調査記録等は、芦屋市教育委員会社会教育部生涯学習課三条埋蔵文化財整理事務所において保管している。広く活用されることを希望する。
21. 発掘調査および整理事業の過程で、下記の方々・機関から御助言・御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします（50音順、敬称略）。

飽浦 怜	浅岡俊夫	尼子奈美枝	伊井孝雄	勇 正廣	石部正志
岩本 崇	植木 友	白井 唯	梅原章一	遠藤創平	太田宏明
葛野 豊	川口宏海	岸本純一	岸本直文	北垣聰一郎	木許 守
黒田慶一	合田茂伸	河野克人	齊藤哲朗	坂田典彦	先山 徹
清水一文	鈴木重治	関野 豊	竹知克征	辻 康男	寺岡 洋
富山直人	永井正浩	中村博司	西川卓志	乗岡 実	範國忠士
濱野俊一	林 貢	藤川祐作	藤田和尊	藤原清尚	古川久雄
堀内明博	松田常子	村川行弘	森下章司	百瀬正恒	山上雅弘
山村 薫	安田 滋	山口英正	山本徹男	米田篤三郎	和田秀寿
渡辺 武	渡辺 昇				

大手前大学史学研究所

本文目次

序 文
例 言

第1章 大坂城と徳川大坂城東六甲採石場

- 第1節 大坂城と徳川大坂城東六甲採石場……………(白谷朋世) …… 1
- 第2節 徳川大坂城東六甲採石場に関する調査と研究
 - (1) 既往の調査・研究……………(竹村忠洋) …… 5
 - (2) 今後の調査・研究および石材の保存方法……………(竹村) …… 11

第2章 遺跡をとりまく環境

- 第1節 地理・地質的環境……………(竹村) …… 23
- 第2節 歴史的環境……………(白谷) …… 27

第3章 調査に至る経緯と経過

- 第1節 調査に至る経緯……………(竹村) …… 35
- 第2節 調査体制……………(竹村) …… 37
- 第3節 調査の経過……………(竹村・白谷) …… 37

第4章 発掘調査の成果

- 第1節 確認調査の概要……………(竹村) …… 51
- 第2節 本発掘調査の方法……………(竹村) …… 55
- 第3節 現状地形と基本土層……………(白谷) …… 56
- 第4節 採石遺構・石材
 - (1) 旧地形と遺構・石材の分布……………(白谷) …… 62
 - (2) 採石遺構(石材群)……………(白谷) …… 69
 - (3) 石 材……………(竹村) …… 91
- 第5節 遺 物
 - (1) 須恵器……………(水津真実) …… 121
 - (2) 鉄製品……………(水津) …… 121
 - (3) 近代遺物……………(水津) …… 122

第5章 ま と め

- 第1節 長州藩毛利家の採石領域と石材搬出ルートについて……………(白谷) …… 123
- 第2節 地形と丁場の形態について……………(白谷) …… 126
- 第3節 おわりに……………(竹村) …… 129

引用・参照文献…………… 132

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	石のふるさと……………	2	第26図	六麓荘町の邸宅に見られる矢穴石……………	34
第2図	室津の石垣用石材……………	3	第27図	平野邸洋館……………	35
第3図	西蔵町出土の石垣用石材……………	4	第28図	調査地東角の石碑……………	35
第4図	徳川大坂城東六甲採石場における刻印群の分布 ……………	5	第29図	予備踏査……………	36
第5図	矢穴の基本型式分類模式図……………	6	第30図	B区確認調査風景……………	36
第6図	岩ヶ平刻印群(第66地点)で検出された掘立柱 建物……………	8	第31図	1号石材の実測……………	38
第7図	調整石生成工程の諸類型模式図……………	9	第32図	2号石材の実測……………	39
第8図	芦屋市指定文化財第8号 徳川大坂城毛利家 採石場出土刻印石……………	10	第33図	研究者による現地見学……………	40
第9図	徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群および 八十塚古墳群調査地点分布図(1)……………	12	第34図	急斜面部分の防災工事……………	40
第10図	徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群および 八十塚古墳群調査地点分布図(2)……………	13	第35図	花崗岩礫の除去・移動作業……………	41
第11図	岩ヶ平刻印群(第45地点)1号石材……………	21	第36図	A4区表土除去……………	41
第12図	岩ヶ平刻印群(第67地点)石材群……………	21	第37図	重機による近現代石垣の除去……………	42
第13図	森岡秀人氏による大坂城築城石の芦屋市域石切 丁場関連石材分類試案……………	22	第38図	トライヤル・ウィークの活動……………	43
第14図	兵庫県と芦屋市の位置……………	23	第39図	A5区石材集中部の調査……………	44
第15図	六甲山地東南麓地域の地形と徳川大坂城東六甲 採石場各刻印群の分布範囲……………	24	第40図	研究者による現地検討会……………	45
第16図	六甲山地東南麓地域の地質と徳川大坂城東六甲 採石場各刻印群の分布範囲……………	25	第41図	現地説明会……………	45
第17図	芦屋市内主要遺跡分布図……………	27	第42図	梅原章一氏による写真撮影……………	45
第18図	芦屋市内宮川流域遺跡分布図……………	28	第43図	7号石材の検出……………	46
第19図	八十塚古墳群の古墳分布・支群と地形……………	29	第44図	1号石材刻印部分割り取り作業……………	46
第20図	調査地点とどんどん川にかかる石橋……………	30	第45図	B5区の掘削……………	47
第21図	朝日ヶ丘遺跡(第25地点)で検出した新田開発に 伴う割石……………	32	第46図	大雨による調査区壁の崩壊……………	47
第22図	翠ヶ丘古墳群検出の近世の溝・堀状遺構……………	32	第47図	7号石材の実測……………	48
第23図	六麓荘開発時の水道・ガス・電気埋設工事……………	33	第48図	クレーンによる空中撮影……………	48
第24図	岩ヶ平刻印群(第79地点)で検出した埋設管と 移動石材……………	34	第49図	山本徹男氏によるビデオ撮影……………	49
第25図	八十塚古墳群(第108地点)で検出した埋設管と 石積みによる造成……………	34	第50図	B4区の調査……………	49
			第51図	ラジコンヘリによる空中撮影……………	49
			第52図	2号石材刻印部分割り取り作業……………	49
			第53図	先山 徹氏による花崗岩の調査……………	50
			第54図	45号石材の移動……………	50
			第55図	造成工事……………	50
			第56図	国土座標を用いた地区割り……………	52
			第57図	任意に設定した地区割り……………	53
			第58図	確認調査トレンチ配置図……………	54
			第59図	調査地現状地形と石材の分布……………	57
			第60図	確認調査の主要トレンチ 土層断面図……………	60
			第61図	調査区平面図と石材の分布……………	63

第62図	B 5 区検出流路 平面図・土層断面図	66	第85図	2号石材 断面図	105
第63図	A 1 区 土層断面図	68	第86図	7号石材 刻印拓影	105
第64図	B 4 区東壁 土層断面図	70	第87図	石材矢穴列(痕)模式図(1)	106
第65図	B 4 区 平面図・土層断面図	71	第88図	石材矢穴列(痕)模式図(2)	107
第66図	採石遺構 1 平面図・立面図・断面図	73	第89図	石材矢穴列(痕)模式図(3)	108
第67図	採石遺構 2 平面図	75	第90図	石材矢穴列(痕)模式図(4)	109
第68図	採石遺構 2 土層断面図	76	第91図	石材矢穴列(痕)模式図(5)	110
第69図	B 6 区 平面図・土層断面図	78	第92図	石材矢穴列(痕)模式図(6)	111
第70図	採石遺構 3 上層のコツパ集中部 平面図・土層 断面図	79	第93図	石材矢穴列(痕)模式図(7)	112
第71図	採石遺構 3 平面図・断面図	80	第94図	石材矢穴列(痕)模式図(8)	113
第72図	採石遺構 3 土層断面図	81	第95図	石材矢穴列(痕)模式図(9)	114
第73図	B 6 区断割トレンチ南西壁 土層断面図	82	第96図	石材矢穴列(痕)模式図(10)	115
第74図	採石遺構 4 平面図・断面図	83	第97図	各石材の矢穴および矢穴痕	120
第75図	採石遺構 4 土層断面図	84	第98図	出土遺物(1)	121
第76図	A 3・5区 平面図・土層断面図	87	第99図	出土遺物(2)	122
第77図	採石遺構 5 平面図・立面図・断面図	89	第100図	出土遺物(3)	122
第78図	城の石垣と各種用石	92	第101図	伊豆半島東海岸毛利家占有丁場の刻印石	124
第79図	石割工程模式図	95	第102図	宮川水系と長州藩毛利家関連石材の分布	125
第80図	石割技法模式図(1)	97	第103図	岩ヶ平刻印群(第84地点)検出の谷占有型丁場	126
第81図	石割技法模式図(2)	98	第104図	岩ヶ平刻印群(第84地点)検出の作業面造成型 丁場	127
第82図	11・26号石材の石割工程模式図	101	第105図	岩ヶ平刻印群(第67地点)検出の沢占有型丁場	128
第83図	1号石材 平面図・立面図・断面図および刻印 拓影	103	第106図	岩ヶ平刻印群(第106地点)検出の沢占有型丁場 ……………	128
第84図	2号石材 平面図・立面図および刻印拓影	104	第107図	六麓荘緑地に移設された石材の解説板	131

表 目 次

第1表	徳川幕府による大坂城の修築事業とその工程 ……………	1	第6表	八十塚古墳群調査地点一覧表(1)	18
第2表	徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群調査地点 一覧表(1)	14	第7表	八十塚古墳群調査地点一覧表(2)	19
第3表	徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群調査地点 一覧表(2)	15	第8表	八十塚古墳群調査地点一覧表(3)	20
第4表	徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群調査地点 一覧表(3)	16	第9表	八十塚古墳群調査地点一覧表(4)	21
第5表	徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群調査地点 一覧表(4)	17	第10表	石材の種類と性格	94
			第11表	検出石材一覧表	100
			第12表	検出石材矢穴(痕)一覧表(1)	116
			第13表	検出石材矢穴(痕)一覧表(2)	117
			第14表	検出石材矢穴(痕)一覧表(3)	118
			第15表	検出石材矢穴(痕)一覧表(4)	119

写真図版目次

巻頭図版

巻頭図版1 調査地遠景

大阪湾上空から芦屋市と六甲山地東南麓を望む（南から、平成16年芦屋市広報課撮影・提供）
長背尾根東斜面に立地する調査地（北から）

巻頭図版2 空中写真（1）

調査地現況（樹木伐採後、南東から）
調査地全景（東から）

巻頭図版3 空中写真（2）

A区全景（東から）
B4区全景（南東から）

巻頭図版4 1・2号石材

1号石材（北東から）
2号石材（東から）

巻頭図版5 7号石材

7号石材（北西から）
7号石材刻印A・B（北東から）

巻頭図版6 採石遺構1

採石遺構1（北東から）
3号石材採石土坑（東から）

巻頭図版7 採石遺構2

採石遺構2（南西から）
採石遺構2と谷2（南東から）

巻頭図版8 採石遺構3・4

採石遺構3・4（北東から）

巻頭図版9 採石遺構5

採石遺構5（南東から、梅原章一氏撮影）

巻頭図版10 採石遺構5

採石遺構5 割石検出状況（南東から、梅原章一氏撮影）
採石遺構5 割石検出状況（南から、梅原章一氏撮影）

写真図版

図版1 調査地遠景

調査地遠景（南から、▲の交点が調査地）
上空からみた六麓荘町・岩園町付近（北東から、▲の交点が調査地、平成14年芦屋市広報課撮影・提供）

図版2 調査地からの眺望

調査地から東方を望む（西から）
調査地から南東方を望む（北西から）

図版3 調査地近景

調査地近景（北西から）
調査地近景（南西から）

図版4 調査地現況（1）

A4区・B5区付近樹木伐採前現況（南西から）
4号石材樹木伐採前現況（南東から）
調査地にあった尼崎藩領界石（北西から）

図版5 調査地現況（2）

A1・3・5区付近現況（北西から）
A2・3・4区・B5区付近現況（北東から）
B1区付近現況（南東から）

図版6 空中写真（1）

調査地全景（垂直写真）
A区全景（垂直写真）

図版7 空中写真(2)

- B区全景(垂直写真)
- B4区付近(垂直写真)

図版8 空中写真(3)

- B5区付近(垂直写真)
- B6区付近(垂直写真)

図版9 A1区

- A1区全景(北西から)
- A1区全景(南東から)
- A1区北西壁土層(南東から)
- A1区北西壁土層(南東から)
- A1区北西壁土層(南東から)

図版10 A2区

- A2区全景(北西から)
- A4トレンチ掘削状況(北から)
- A7トレンチ掘削状況(北から)
- A2区礫検出状況(南東から)

図版11 A3区

- A3区全景(東から)
- A5トレンチ掘削状況(北東から)
- A8トレンチ掘削状況(北西から)
- A10トレンチ掘削状況(西から)

図版12 A4区

- A4区全景(南東から)
- A4区全景(南から)
- A4区切り通し部分における基盤層検出状況
- A12トレンチ掘削状況(北西から)
- A14トレンチ掘削状況(東から)

図版13 A5区

- A5区全景(北西から)
- 1号石材セクション(西から)
- 1号石材セクション北西壁土層(北西から)
- A16トレンチ掘削状況(北東から)

A16トレンチ南壁土層(北から)

図版14 A6区

- A6区全景(南西から)
- A11トレンチ掘削状況(南から)
- A11トレンチ南西壁土層(北東から)
- A15トレンチ掘削状況(北東から)

図版15 B1区

- B1区掘削状況遠景(南東から)
- B1区掘削状況近景(北東から)
- B7トレンチ掘削状況(南から)
- B8トレンチ掘削状況(東から)

図版16 B2・3・4区

- B2トレンチ掘削状況(北西から)
- B6トレンチ掘削状況(南西から)
- B4トレンチ掘削状況(南東から)
- B3トレンチ掘削状況(北から)
- B3トレンチ掘削状況および19号石材検出状況(東から)
- B15トレンチ掘削状況(南から)

図版17 B5区(1)

- B5区全景(東から)
- B10トレンチ掘削状況(南東から)
- B10トレンチ北部基盤層検出状況(北から)
- B10トレンチ南西壁北部土層(東から)

図版18 B5区(2)

- B10トレンチ南西壁中央部土層(東から)
- B10トレンチコップ検出層位(北東から)
- B10トレンチコップ検出状況(南東から)
- B16トレンチ掘削状況(南東から)
- B16トレンチ南西壁中央部土層(東から)
- B16トレンチ南西壁南部土層(北東から)

図版19 B5区(3)

- B5区流路検出状況(南東から)
- 流路2土層(南東から)

流路3土層（南東から）

B5区流路検出状況（南から）

図版20 B5区（4）

B5区コッパ群および22号石材検出状況（西から）

B5区コッパ群および22号石材検出状況（北東から）

B5区コッパ群完掘状況（西から）

コッパ群検出状況

矢穴痕のあるコッパ検出状況

矢穴痕のあるコッパ検出状況

矢穴痕のあるコッパ検出状況

図版21 B6・7区

B6・7区トレンチ設定状況（北から）

B12トレンチ掘削状況（東から）

B12トレンチ南西壁土層（南東から）

B12トレンチ南西壁南部土層（北東から）

図版22 B7・8区

B13トレンチ掘削状況（南東から）

B13トレンチ南西壁北部土層（北東から）

B13トレンチ南西壁中央部土層（北東から）

B13トレンチ南西壁南部土層（北東から）

B5トレンチ掘削状況（北東から）

B9トレンチ掘削状況（南東から）

図版23 採石遺構1（1）

B14トレンチ掘削状況（東から）

B14トレンチ掘削状況（南東から）

B14トレンチ南壁土層（北東から）

B14トレンチ北壁土層（南から）

図版24 採石遺構1（2）

3号石材現況（南東から）

3号石材現況（南から）

3号石材現況（東から）

図版25 採石遺構1（3）

B4区全景（北東から）

B4区全景（南から）

図版26 採石遺構1（4）

3号石材採石土坑全景（東から）

3号石材検出状況（東から）

3号石材採石土坑全景（北東から）

3号石材・45号石材検出状況（東から）

図版27 採石遺構1（5）

3号石材に伴う平坦面（南東から）

3号石材採石土坑掘削状況（北から）

3号石材東端部分および前面の採石土坑（南東から）

3号石材採石土坑掘削状況（西から）

3号石材採石土坑埋土（南西から）

図版28 採石遺構1（6）

45号石材および谷1検出状況（北西から）

45号石材検出状況（北から）

45号石材検出状況（北西から）

B4区コッパ群および割石検出状況（南西から）

B4区コッパ群完掘状況（南西から）

図版29 採石遺構2（1）

4号石材現況（南東から）

採石遺構2関連石材検出状況（南東から）

4号石材セクション土層（南から）

4号石材採石土坑セクション土層（南西から）

4号石材セクション土層および4・30号石材（南から）

図版30 採石遺構2（2）

4号石材（南東から）

4号石材（東から）

4号石材と4号石材採石土坑完掘状況（北東から）

4号石材下端（南東から）

4号石材・30号石材（南東から）

9号石材・31号石材検出状況（南東から）

9号石材・31号石材検出状況（北から）

31号石材セクション土層（北西から）

図版31 採石遺構 2 (3)

採石遺構 2 全景 (南東から)

採石遺構 2 と谷 2 (南から)

採石遺構 2 全景 (南から)

図版32 採石遺構 3・4

B 6 区全景 (北東から)

採石遺構 3・4 全景 (北東から)

採石遺構 3・4 全景 (南西から)

図版33 B 6 区土層断面

B 6 区北西壁西部土層 (南から)

B 6 区北西壁中央部土層 (南東から)

B 6 区北西壁東部土層 (東から)

図版34 採石遺構 3 (1)

B 17 トレンチ掘削状況 (南西から)

B 17 トレンチ掘削状況 (北東から)

B 17 トレンチ 24 号石材・コップ群検出状況 (北東から)

図版35 採石遺構 3 (2)

採石遺構 3 コップ群検出状況 (南から)

採石遺構 3 コップ群・24 号石材検出状況 (南東から)

採石遺構 3 コップ群半裁状況 (南東から)

採石遺構 3 コップ群セクション南西壁土層 (南西から)

図版36 採石遺構 3 (3)

B 6 区断割トレンチ掘削状況 (東から)

B 6 区断割トレンチ南西壁土層 (北東から)

B 6 区断割トレンチ採石遺構 3 土層 (北東から)

採石遺構 3 セクション設置状況 (北東から)

採石遺構 3 採石土坑東部検出状況 (北東から)

採石遺構 3 東西セクション東半土層 (南東から)

41・42 号石材検出状況 (東から)

採石遺構 3 東西セクション北半土層 (南西から)

図版37 採石遺構 3 (4)

採石遺構 3 および谷 3 掘削状況 (北東から)

谷 3 完掘状況 (南東から)

24 号石材検出状況 (北西から)

採石遺構 3 完掘状況 (南東から)

図版38 採石遺構 3 (5)

採石遺構 3 完掘状況 (南西から)

採石遺構 3 完掘状況 (東から)

採石遺構 3 完掘状況 (南東から)

図版39 採石遺構 4 (1)

7 号石材現況 (南東から)

B 11 トレンチ掘削状況 (南から)

B 11 トレンチ掘削状況 (北西から)

B 11 トレンチ南西壁土層 (東から)

B 11 トレンチ南西壁コップ検出状況 (北東から)

図版40 採石遺構 4 (2)

採石遺構 4 掘削状況 (北東から)

採石遺構 4 東部コップ群検出状況 (南東から)

7 号石材と割石・コップ検出状況 (北東から)

採石遺構 4 完掘状況 (東から)

図版41 採石遺構 4 (3)

7 号石材に伴うコップ検出状況 (北から)

7 号石材に伴うコップ検出状況 (北東から)

B 17 トレンチ東延長部掘削状況 (南から)

7 号石材に伴う採石土坑埋土 (南東から)

7 号石材に伴う採石土坑掘削状況 (東から)

図版42 採石遺構 4 (4)

7 号石材に伴う採石土坑完掘状況 (南東から)

採石遺構 4 完掘状況 (南から)

7・40 号石材に伴う採石土坑埋土 (南西から)

図版43 採石遺構 4 (5)

採石遺構 4 完掘状況 (西から)

採石遺構 4 完掘状況 (北西から)

7・38・39 号石材検出状況 (北から)

- 図版44 採石遺構4(6)
 7・38・39号石材検出状況(北東から)
 採石遺構4に伴う段差完掘状況(東から)
 採石遺構4に伴う段差の割石検出状況(南西から)
- 図版45 採石遺構5(1)
 A9トレンチ掘削状況(南東から)
 A3・5区土層観察用土手の設定状況およびA9トレンチ掘削状況(東から)
 A9トレンチ北西壁割石集中部分土層(南東から)
 A9トレンチ北西壁割石集中部分土層(南から)
- 図版46 採石遺構5(2)
 A9トレンチおよび採石土坑5掘削状況(南から)
 A9トレンチ北西壁13号石材周辺土層(南から)
 A9トレンチ北西壁採石土坑肩部土層(南から)
 A3区セクション設定状況(南東から)
 A3区セクション南壁土層(南から)
- 図版47 採石遺構5(3)
 採石遺構5と西側斜面(西から)
 採石遺構5全景(西から)
 採石遺構5の西肩部礫検出状況(南から)
- 図版48 採石遺構5(4)
 採石遺構5割石検出状況(東から)
 採石遺構5完掘状況(南東から)
 採石遺構5割石検出状況(南東から)
 採石遺構5割石検出状況(北東から)
- 図版49 採石遺構5(5)
 採石遺構5全景(北西から)
 採石遺構5割石検出状況(南から)
 採石遺構5割石検出状況(部分)(南から)
 採石遺構5割石検出状況(東から)
 採石遺構5割石検出状況(北西から)
- 図版50 採石遺構5(6)
 11・12・26・27号石材検出状況(南西から)
- 11・12・26・27・28号石材検出状況(南東から)
 11・12・26・27・28号石材検出状況(西から)
- 図版51 1号石材(1)
 1号石材樹木伐採前現況(北から)
 1号石材現況(南東から)
 1号石材南西側土層断面(西から)
- 図版52 1号石材(2)
 1号石材(北東から)
 1号石材(北西から)
 1号石材(南西から)
 1号石材刻印A・B(西から)
 1号石材刻印C・D(北東から)
- 図版53 2号石材
 2号石材(東から)
 2号石材(南から)
 2号石材(西から)
 2号石材刻印A(東から)
 2号石材刻印A(東から)
- 図版54 3号石材
 3号石材(北東から)
 3号石材矢穴列痕a-1(南東から)
 3号石材矢穴列痕a-2(南東から)
 3号石材矢穴下取り線(北東から)
 3号石材ヤバトリ(北東から)
- 図版55 4号石材
 4号石材(南東から)
 4号石材(北東から)
 4号石材(北西から)
 4号石材矢穴列痕とヤバトリ(南東から)
 4号石材ヤバトリ(北西から)
- 図版56 7号石材
 7号石材(北東から)
 7号石材(南東から)

- 7号石材刻印A・B（北東から）
- 図版57 11・26号石材
- 11・26号石材（南東から）
- 11・26号石材（南西から）
- 26号石材矢穴列b矢穴6～10（南西から）
- 図版58 24号石材
- 24号石材（北西から）
- 24号石材（北東から）
- 24号石材（南から）
- 24号石材矢穴列痕b矢穴痕6～8（北西から）
- 24号石材矢穴列痕a（南東から）
- 図版59 30号石材
- 30号石材（南から）
- 30号石材（移動後）
- 30号石材矢穴下取り線か（南から）
- 図版60 石材（1）
- 5号石材（移動後）
- 6号石材（南東から）
- 8号石材（南東から）
- 9号石材（移動後）
- 10号石材（移動後）
- 12号石材（南から）
- 13号石材（南西から）
- 13号石材（移動後）
- 図版61 石材（2）
- 14号石材（南東から）
- 16号石材（南東から）
- 17号石材（北東から）
- 18号石材（南西から）
- 19号石材（南東から）
- 20号石材（東から）
- 21号石材（南東から）
- 22号石材（南東から）
- 図版62 石材（3）
- 23号石材（南西から）
- 25号石材（南東から）
- 27号石材（北東から）
- 28号石材（南から）
- 29号石材（移動後）
- 31号石材（西から）
- 32号石材（移動後）
- 33号石材（移動後）
- 図版63 石材（4）
- 34号石材（移動後）
- 35号石材（移動後）
- 36号石材（移動後）
- 37号石材（移動後）
- 38号石材（1）（北から）
- 38号石材（2）（北東から）
- 39号石材（移動後）
- 40号石材（南西から）
- 図版64 石材（5）
- 41号石材（北東から）
- 42号石材（移動後）
- 43号石材（移動後）
- 44号石材（北東から）
- 45号石材（北西から）
- 46号石材（南東から）
- 47・48号石材（移動後）
- 48号石材（南西から）
- 図版65 遺物
- 出土遺物
- 図版66 石材の移設保存
- 六麓荘緑地（南東から）
- 六麓荘緑地内石材移設保存状況（北から）
- 24号石材に設置した解説板

第1章 大坂城と徳川大坂城東六甲採石場

第1節 大坂城と徳川大坂城東六甲採石場

大阪市の中心部に、かつての豪壮さを彷彿とさせる再建天守閣をいただき、その土台と外周に大規模な石垣と濠を巡らせる大坂城は、近世初頭の石垣構築技術の粋を集めた天下の名城として世界遺産候補の声も挙がる名城である〔朝日新聞社2004〕。とはいえ、昭和6年（1931）に大阪市大典記念事業として再建された鉄筋コンクリート製の復元天守閣が桃山建築様式を取り入れて建造されたように、一般には長らく、「大坂城は豊臣秀吉（太閤さん）の城」と信じられてきた。もちろん、慶長20年（1615）の大坂夏の陣で大坂城が落城し、天守閣が炎上したことや、その後徳川氏によって天守閣が再建されたこと、さらに落雷や失火によってその天守閣も失われたことは広く知られていたが、それでも、石垣や濠はもとより天守台やそれに付随する井戸（金明水）までが、豊臣時代の産物であると久しく信じられてきたのである。昭和34年（1959）に大阪城総合学術調査団が結成されたが、この調査に参加した村川行弘氏は、平成7年（1995）の講演会において、「大阪城総合学術調査団の調査によって、今の大阪城は豊臣秀吉と何の関係もない徳川期のものであることがわかってきたが、当時はその発見が受け入れられる状態ではなかった」旨を回顧されている〔村川1995〕。しかし、近年の相次ぐ発掘調査結果の公表によって、豊臣期の大坂城は完全に地中に埋め込まれ、その上に場所によっては10mを越える土盛りを行って高石垣を設けたものが現在目にするのできる大阪城の石垣であることが、徐々に周知されるようになってきた〔大阪城天守閣2002ほか〕。この徳川期の大坂城（以下、「徳川大坂城」と表記する。）は、豊臣大坂城落城から5年後の元和6年（1620）から寛永6年（1629）の10年間にわたる計3回の工期を経て完成したものである。第1表に示すように、第1期工事は元和6年（1620）に始まり、続いて第2

第1表 徳川幕府による大坂城の修築事業とその工程〔森岡編1998〕

大坂城修築工役	工 期	着手 場所	普請総指図役	普 請 奉 行	参加大名
第1回工役	元和6年(1620) 1月～	二の丸西・北・東 三の丸 北の外曲輪	藤 堂 高 虎	戸 田 氏 鉄 村田権右衛門 日下部宗好 渡 辺 勝 花 房 正 成 長 谷 川 守 知	31か国 48家
	元和8年(1622) 6月～	本丸天守台			
第2回工役	寛永元年(1624) 1月	本丸 山里丸	藤 堂 高 虎 (計画) 戸 田 氏 鉄 (総奉行) 安 藤 重 長 青 山 幸 成 (検分)	加々 爪 忠 澄 日 下 部 宗 好 堀 直 之	32か国 57家
	寛永2年(1625) 2月	本丸石垣の修築 完了			
第3回工役	寛永5年(1628)	二の丸南 外濠	戸 田 氏 鉄	加々 爪 忠 澄 堀 直 之	32か国 54家